

個人山行

丹沢：臼ヶ岳・蛭ヶ岳

- ◆日程 2019年4月13日(土)～14日(日)
- ◆メンバー L：小山田、池本、小林(悦)
- ◆天候 晴れ

蛭ヶ岳は遠い。神奈川県最高峰は、どこから上がっても遠い。何年か前から、ユーシンから直登するルートを図で眺めては、行ってみたいと思っていた。グズグズしているうちに、玄倉林道がまたもや崩れて通行止めになってしまった。こうなったらもう、雨山峠を越えて、ユーシンの様子を見がてら、行くしかない。ユーシンから臼ヶ岳間は破線ルートだが、尾根ははっきりしている。今まで先輩方の後をついて上がっているばかりだったが、人に頼らないバリエーションデビュー(ってほどでもないが)としては、危険も少なそうで、適当なのでは、と決行した。

寄、雨山峠間は、新しそうな黄色い道標が整備され、ご丁寧に渡渉箇所を教えてくれる親切ぶり。峠から雨山橋まで下りる道は多少ザレて怖いところもあり。人気のない玄倉林道に降り、久しぶりのユーシンロッジに向かってウキウキと歩き出して、しばらくすると目を違う状況に出くわした。沢が入っているところで、林道が一部完全に無くなっていた。道の下に巨大な土管を通して沢の水を通していたところへ、おそらく許容量を超える水が流れてきたのだろう、土管と林道が、沢の幅ぶん、むしり取られて、陥没している。かろうじて残った林道のふちの部分幅30センチほどが、一本橋のようにになっている。これではもう、車が通れるようにはならないだろうと思った。ユーシンロッジの再開を熱望していた身としては、非常にショックで、悲しかった。公衆電話にも紙が貼ってあり、使えなくなっていた。熊本ダムも水をぬいているようだ。全く人気のないロッジの前庭で昼食をとり、かろうじて咲いていた名残りのミツマタを楽しみ、臼ヶ岳南尾根へ。トイレの裏から尾根へ上がり、コンパスをふって歩き出す。途中、特徴的な地形をいくつかチェックしながら、ひたすら尾根を上がっていく。木につかまりながら上がる急登もあったが、さほど迷いそうなこともなく、基本的に忠実にコンパスを頼りに臼ヶ岳に上がることができた。先輩の後をついて行くのではなく、仲間とあだこうだ言いながら、道がほぼないところを、予定通りのルートで歩くことができた充実感。途中から、ちらほら雪があったが、稜線に上がると一面雪景色。吹き溜まりは30センチ以上もある。蛭ヶ岳直下の岩の登りはズルズルと滑り、登山道のほうがよほど怖い。明日この道を下りるのは危なすぎると判断。大倉に下りることにする。蛭ヶ岳山荘に着くと、小屋番さんが心配して待っていてくれた。あのルートじゃ、きつかったろう、と声をかけられる。確かに楽ではなかったけれど、自分達で破線ルートを上がれたことは、ちょっぴり自信につながった。

(記：小山田)

CT：4/13 寄7:30 - 雨山峠10:10 - ユーシンロッジ11:00/12:00-臼ヶ岳15:00
-蛭ヶ岳16:30

4/14 蛭ヶ岳6:20-丹沢山8:00-塔ノ岳9:30-大倉12:15